

第8回小児がん中央機関アドバイザリーボード
2022年2月2日（水）14：00～17：00

小児がん相談員の現状

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

小児がんセンター 富澤 大輔

医療連携・患者支援センター 鈴木 彩

小児がん中央機関 相談支援事業

- 小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する**相談支援の向上に関する体制整備を行う**
- 小児がん患者・経験者の発達段階に応じた**長期的な支援のあり方について検討する**



小児がんに関わる相談員を育成し、また部会や研修を通じて、相談支援における質の向上を目指すための事業を実施する必要がある。

中央機関が実施する事業について

【小児がん相談員専門研修】

→拠点病院と連携病院の相談員

【小児がん拠点病院相談員継続研修】

【小児がん拠点病院相談員ブロック企画研修】

→拠点病院の相談員のみ

【小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会】

→拠点病院の相談支援センターに所属する相談員

2021年度 小児がん相談員専門研修プログラム

事前受講 (Eラーニング)

講義1	「小児がん対策」
講義2	「小児・AYA世代のがん患者に対する相談支援センターの役割」
講義3	「小児がん概論」
講義4	「AYA世代のがん」
講義5	「血液腫瘍」
講義6	「固形腫瘍」
講義7	「脳腫瘍」
講義8	「晩期合併症と長期フォローアップ」
講義9	「小児緩和ケア」
講義10	「小児がんの子どもたちの成長発達」
講義11	「小児がん患者・きょうだいへの支援」
講義12	「教育支援」

9月12日(日)

時間	プログラム
9:00-9:30	講義13 「小児がん患者家族を支える社会資源」
9:30-10:00	講義14 「当事者の語り」
10:00-10:30	講義15 「自立支援」
10:30-10:40	休憩
10:40-11:20	講義16 「相談支援概論」
11:20-12:00	講義17「小児がんの相談支援の実際」
12:00-13:00	休憩
13:00-15:30	演習 (事例検討)

演習において、受講者の経験にばらつきがあり、ファシリテートにも苦労している。
(オンラインによる影響もある。)

2015年～2021年小児がん相談員専門研修 受講者数：405名

ブロック	小児がん相談員専門研修受講者数 内訳							
	拠点病院			連携病院			その他施設	
	病院名	受講者数	ブロック毎 拠点病院 受講者数	施設数	受講 施設数	受講者 数	施設数	受講 者数
北海道 東北	北海道大学病院	7	7	15	4	7	1	0
	東北大学病院	17	17	9	6	16	0	0
関東甲信越	埼玉県立小児医療センター	9	55	41	39	96	3	9
	国立成育医療研究センター	15						
	東京都立小児総合医療センター	16						
	神奈川県立こども医療センター	15						
東海・北陸	静岡県立こども病院	20	37	17	11	22	4	0
	名古屋大学附属病院	8						
	三重大学医学部附属病院	9						
近畿	京都府立医科大学附属病院	1	30	32	22	43	2	3
	京都大学医学部附属病院	4						
	大阪市立総合医療センター	14						
	兵庫こども病院	11						
中国・四国	広島大学病院	9	9	16	11	24	1	0
九州・沖縄	九州大学病院	8	8	14	9	18	4	4
合計		163	163	144	102	226	15	16

小児がん拠点病院 相談支援センターの現状

病院名	相談支援センターの名称	2018年 相談件数	相談支援センターの人員体制											研修受講状況（受講者数）					
			職種					その他の 職種内訳	合計	常勤			非常勤			基礎（1）	基礎（2）	基礎（3）	小児がん専門 研修
			看護師	SW	心理	CLS等	その他			専従	専任	兼任	専従	専任	兼任				
北海道大学病院	がん相談支援センター	132		1					1	1						1	1		1
東北大学病院	小児がん相談室	229	4	2	2	1			9	1		8				9	9	0	9
埼玉県立小児医療センター	小児がん相談支援センター	463	1	2	1	1	1	医師	6		1	3	1	1		2	1	1	2
国立成育医療研究センター	小児がん相談支援センター	369	1	2					3	2		1				3	3	1	3
東京都立小児総合医療センター	子どもがん相談支援センター	533		3	3				6	1	3	1		1		6	6	1	4
神奈川県立こども医療センター	小児がん相談支援室	281	1	7					8	1		6			1	7	7	1	7
静岡県立こども病院	小児がん相談室	392	2	2		1	7	医師・薬剤師・メデイーター・事務	12	2		9			1	4	3	1	1
名古屋大学医学部附属病院	地域連携・患者相談センター がん相談支援センター	510		2					2	2						2	1	1	2
三重大学医学部附属病院	総合サポートセンター	205	2	10	2		1	医師	15	14	1					4	4	3	3
京都府立医科大学附属病院	がん相談支援センター	564	2		1			看護師1名は 社会福祉士・ 保育士資格あり	3				1	2		3	3	3	1
京都大学医学部附属病院	がん相談支援センター	1023	1	2		1		事務	4	2			2			3	3	2	2
大阪市立総合医療センター	がん相談支援センター	162	2	1		3			6	2	1			3		3	3	2	3
兵庫県立こども病院	がん相談支援室	576	1	2		2		医師・クラーク	5		1	2		2		2	2	1	2
広島大学病院	がん治療センター がん医療相談	170	5	1	2	2			10	4		6				10	10	4	6
九州大学病院	小児がん相談支援センター	1071	1			2			3	3						3	3	3	3
合計			23	37	11	7	15		93	35	7	36	4	4	7	62	59	24	49

小児がん連携病院について

小児がん中央機関では、小児がん拠点病院に対し、ブロックにおいて相談支援部会を開催するようにお願いしており、毎年相談支援部会において各ブロックからの活動報告を実施している。

今回は昨年度ブロックの連携病院にアンケート調査を実施した関東甲信越ブロックのアンケート結果から、連携病院における相談支援体制の状況を報告する。

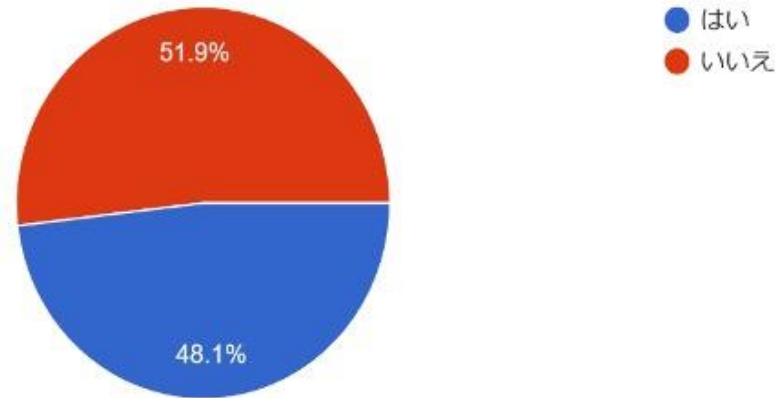
事前アンケートの実施について

- 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会構成施設（43施設）にアンケート協力を依頼

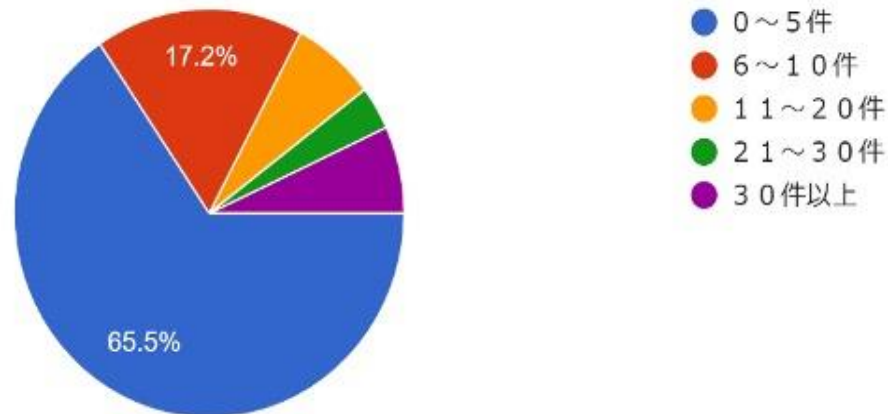
実施期間：2020年8月28日～9月14日

回答施設数：29施設（回答率 67.4%）

(相談支援センター等に) 小児がん相談員専門研修を受講した相談員はいいますか。 (n=27)

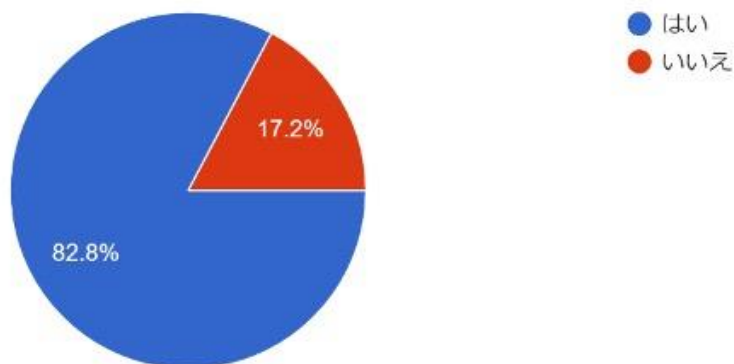


小児がん患者家族からの相談件数 (のべ件数) は1か月あたりどのくらいですか。(n=28)

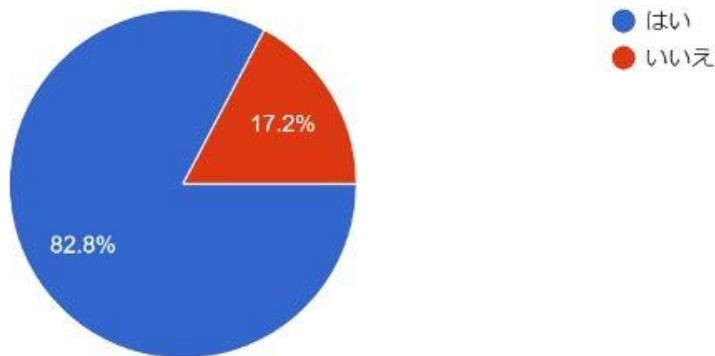


小児がん患者家族に対する相談支援の内容について (n=28)

1)小児がん患者が貴院に来院した際、相談が受けられることが周知されていますか。

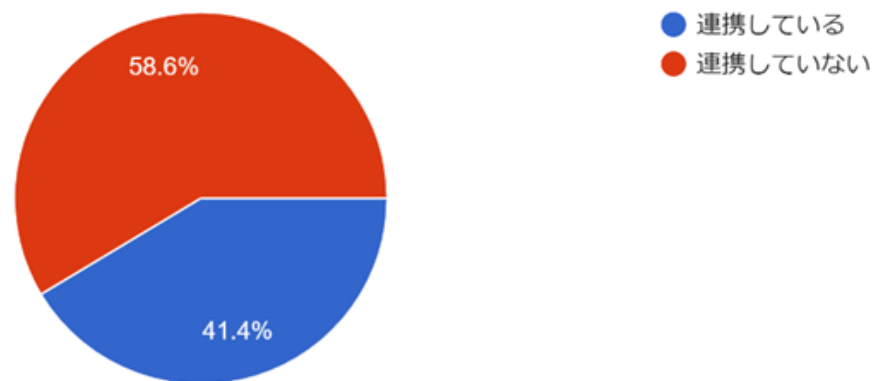


2) 小児がん患者が貴院にて治療を受けることになった場合、院内関係者から相談窓口に相談依頼がきますか。



2. 小児がん患者家族に対する相談支援の内容について (n=28)

5) 必要に応じて、実際に小児がん拠点病院の相談支援センターを紹介したり、連携をしていますか。



➤ 連携した経験がある場合、どのような形で行ったかを教えてください。

- ・電話相談
- ・診療部門で担当医が行っている現状
- ・患者会との電話相談があり、受診ができるように電話で紹介した
- ・セカンドオピニオンについての情報提供は行っているが、直接連絡を取ることは行っていない。
- ・地域の医療機関情報の共有など
- ・ケースに応じて在宅調整時の相談や退院前カンファレンスを実施
- ・ソーシャルワーカーに連絡
- ・セカンドオピニオン先を検索していたケースで対象疾患の専門医がいるか相談支援センターに相談をした。
- ・受診受療についての支援

小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会について

小児がん中央機関

国立がん研究センター
国立成育医療研究センター

小児がん拠点病院
連絡協議会

- 連絡協議会 年2回
- 相談支援部会 年2回

北海道

東北

関東甲信越

中部

近畿

中四国

九州・沖縄

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

ブロック
協議会

各都道府県協議会

小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会 設置要領

(検討事項)

第2条

部会は、次の各号に掲げる事項について、情報を共有・検討する。

- 一 地域単位、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みの現状把握と分析、情報共有に関すること
- 二 相談支援体制機能の強化と向上を果たす上で必要となる全国、地域単位の体制の整備
- 三 小児がん患者家族の支援に関連した施策・制度面の改善等を整理し、協議会を通じて発信できるような提言に向けた素案の作成

これまで相談支援部会で実施したこと

- 小児がんに関する情報共有
- 各ブロックでの取り組みの共有
- 各ブロックにおいて相談支援部会や相談員に対する研修を実施するように依頼
- 部会で取り上げたテーマから、がん患者の教育支援について提言するため、ワーキンググループを設置→教育支援に関する要望書の取りまとめ

相談支援体制の問題点

- ・小児がん拠点病院の相談員は各病院において少人数であり、相談支援業務とともに、ブロックでの研修や部会の開催に伴う業務があり、負担が大きい。
- ・連携病院も指定され、相談員同士のネットワークを強める必要がある。患者家族がきちんと相談支援を受けられるよう、拠点病院と連携病院の相談員が一緒に体制を整備する必要がある。
- ・そのために小児がん拠点病院がすべきことを、15拠点病院で共に考え、経験を共有し、より良い体制を目指すために、中央機関は部会や研修を実施する必要がある。
- ・今年度はまずブロック企画研修を実施するが、このような事業を継続して行なう必要があると考える。オンラインでブロックを超えてつながることができる体制ができたので、これを基に新たな研修の形も検討していく。